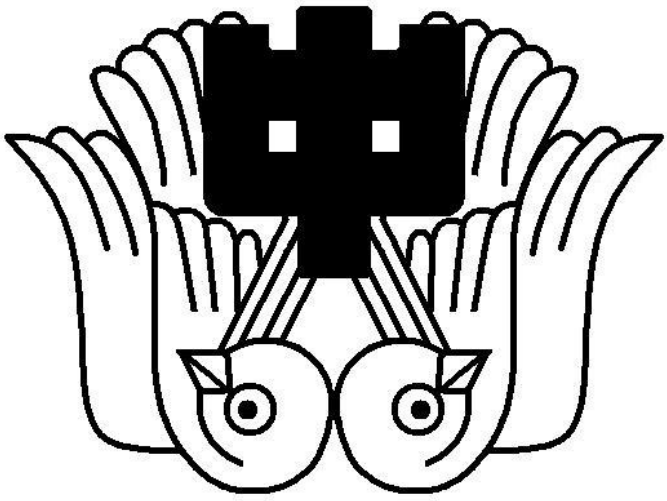
令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】



上尾市立上尾中学校

上尾市立上尾中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

（１）理念
　夢に向かって努力する生徒　～子供は必ず変わる～
（２）教育目標
　一　自ら学ぶ生徒
　二　思いやりのある生徒
　三　健康でたくましく生きる生徒

学校課題研究主題

「学習や生活の見通しをもち、粘り強く取り組む児童生徒の育成」
～伝える力の育成を目指して～
（仮）

学力・学習状況調査の結果

R8 全国学力・学習状況調査	R8 埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
・国語の正答率は県平均を下回っている。話すこと・聞くことの問題について正答率が低く、課題がある。 ・数学の正答率は全国平均、県平均を上回っている。数と式の問題について、県平均より下回っていて課題がある。 ・英語の正答率は全国平均、県平均を下回っている。特に聞くことに関する問題について正答率が低く、課題がある。	・学力レベルの平均は、２学年の国語が２レベル、数学が３レベル、伸びている。３学年の国語は、１レベル、数学が１レベル、英語が２レベル伸びている。 ・１学年は国語が県平均を上回っている。２学年は国語、数学が県平均を上回っている。３年生は数学、英語が県平均を上回っているが、国語は下回っている。 ・学習方略・非認知能力については、全学年が県平均とほぼ同等か高いのレベルを指している。	・１学年の国語、数学、英語は正答率が市の平均を上回っている。特に国語の領域別正答率で「書くこと」に課題がある。 ・２学年の国語、数学、英語は正答率が市の平均を下回っている。特に国語の問題の内容別正答率で「文章を書く」に課題がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的な学力の定着 ②知識・理解の質の向上 ③考えを広げ、深める力の向上	④見方・考え方を働かせながら、深く思考する力 ⑤自分の考えを表現する力 ⑥互いの考えを適切に伝え合い多様な考えを理解する力	⑦よく聴く力、考えを深める力 ⑧振り返りから次の学習につなげたり自分と結び付けたりする力 ⑨互いのよさを生かして協働する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○学習内容の確実な定着の見届け（復習、小テスト、振り返り等） ○発問と教材・教具の工夫 →知識を相互に関連付け、より深い理解へつなげる。 ○少人数指導等による個に応じた指導の実践 ○協働や対話を手がかりにする。	○「見方・考え方」を働かせること ○問題発見→見通し→振り返り→次の問題発見へつなげていく過程の重視 ○自分の考えを表現、目的や状況等に応じ互いの考えを伝え合い、多様な考えの理解、集団の考えを形成する過程の重視 ○思いや考えを共有させ、自らの考えを整理し発表する場を設定	○生徒ができるようになるまでの教師の粘り強い支援と言葉かけ ○自己の考えを広げ深める学び合いの実施（深い学びへつながる対話的な学びの視点） ○実生活への活かし方を考える機会の設定と学ぶ価値の創造 ○生徒の活躍の場の設定

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
・「上尾中学び方サイクル」に基づく授業を実施 ・朝読書の実施　・生徒朝会を活用した委員会活動の充実 ・定期テスト前の支援（ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟｳｨｰｸ［補習・提出物支援］） ・ＩＣＴの効果的活用（必要に応じたオンライン授業の実施） ・ＳＤＧｓの視点を踏まえたシティズンシップ教育の実施 ・特別支援教育の充実　・教育相談体制の充実 ・研究推進委員会の定期化（授業改善・情報共有）	・生徒と教員を結ぶやりとり帳の取組 ・三者面談の実施 ・学校運営協議会主催「みんなで語ろう」の実施 ・ホームページ、学校配信メール等を活用した積極的な情報提供、電子化の推進

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的な学力の定着 ②知識・理解の質の向上 ③考えを広げ、深める力の向上	④見方・考え方を働かせながら、深く思考する力 ⑤自分の考えを表現する力 ⑥互いの考えを適切に伝え合い多様な考えを理解する力	⑦よく聴く力、考えを深める力 ⑧振り返りから次の学習につなげたり自分と結び付ける力 ⑨互いのよさを生かして協働する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①　④⑤⑥⑧	１学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ⑤自分の伝えたいことを整理し、書いたり話したりして正確に伝えられる力を養う。 【定着の見届け】 ④考えたり、整理したりする時間を充分に確保する。結論や主張に至るまでの過程を残せるようなノートの指導を行う。 【主体的・対話的で深い学び】 ④一人一人の考える時間を確実に確保し、更に自分の考えを深めるために交流の場を設ける。討議や話合いを通して他者の考えに触れたり自分の考えを比較したりして、自分の考えの変容を捉え、再度自分の考えを練り直すための機会を増やす。 ２学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ・読む力を身に付けさせることで、自分の見方や考え方を、広げることができる力を養う。 【定着の見届け】 ⑧授業の課題を明確にし、振り返りを行い教員が見届ける。文章をまとめたり、適切な文を選択したりできているか等の問題演習を、継続的に実施し、評価していく。語句・漢字の繰り返し学習を行う。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑥増やした語彙を生かし、それを活用して短文を書く	

		等の機会を多くする。自分の考えや思ったことをグループで共有したり、発表する場を多く設けたりすることで、人の話を聞き、それを生かして自分の考えを述べることができるよう促す。 ３学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ①「話す」「聞く」「書く」「読む」という基本的な力を身に付け、深い読み取りができるように発問や課題を設定すると共に、設問や課題に対し、わかりやすく的確に「書く」力を育てる。 【定着の見届け】 ⑤ワークシート・ノート・作品等の提出物の確認を通し、生徒一人一人の実態を把握し評価するとともに、成長を認め励ます言葉がけを行う。また自分の考えを言葉にし、記述する機会を増やしていく。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑥一人一人の考える場を設定し、考えを記述した上で、意見の発表や話合いを行い、共有を図る。	
社会	④⑤⑥	１学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ④世界の国や地域・時代の特徴を概観できる資料を実物・視覚教材で提示し「問い」を立て、人々の暮らしや生き様を考えられるようにする。 【定着の見届け】教科書復習問題の確認、定期的なノート提出を行い見届ける。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑥「なぜ」や「どうして」などの生徒が考えたくなるような「問い」を設定し、少人数での話合いと意見交換を取り入れていく。 ２学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ・単元等内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定するとともに、ＩＣＴ機器を活用し、興味や関心を高める資料を提示する。 【定着の見届け】 ・教科書復習問題の確認、定期的なノート提出、単元テスト、発表・話合い活動の様子を観察するなどして見届ける。 【主体的・対話的で深い学び】	

		④現実の課題など、具体的場面を想定し、その課題の解決に向けて自分の考えをまとめたり、議論により考えを深めたりしたりする時間を設定する。 ３学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ・歴史的事象や政治・経済を概観できる資料を提示し、「問い」を立て、人々の暮らしや生き様を考えられるようにする。 【定着の見届け】 ・教科書復習問題の確認、定期的なノート提出をさせて見届ける。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑤「なぜ」や「どうして」などの生徒が考えたくなるような実生活に結びついた「問い」を設定し、少人数の話合いを意図的に取り入れ、多くの考えを発表させる。	
数学	① ②③④⑤	１学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ⑤比例の学習で、理科の地震の仕組み等他教科と関連付いていることを生徒に気付かせると共に、自分の言葉で発表できる指導を意図的に行う。 【定着の見届け】 ①小テスト・単元別テストの実施、応用問題への取組の場を設け、机間指導等でヒントを個別に与える。また、習熟度に応じた補習を行う。 【主体的・対話的で深い学び】 ③生徒に考えさせるような発問（補助・切り返し）の工夫をすることにより、生徒が数学的な見方・考え方を働かせながら、思考力・表現力を高め、深い学びにつながる指導を行う。 ２学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ・一次関数において、理科の空気中の水の変化と関連付いていることを提示しながら指導を行う。また、温度上昇下降に伴う温度変化の座	

		標及び傾きを意識させる指導を行う。 【定着の見届け】 ②小テスト・単元別テストの実施、机間指導で丸付けを行う。また、定期テストなどの解き直しや習熟度に応じた補習を行う。 【主体的・対話的で深い学び】 ④生徒に考えさせるような発問（補助・切り返し）の工夫をすることにより、生徒が数学的な見方・考え方を働かせながら、思考力・表現力を高め、深い学びにつながる指導を行う。 ３学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ・二次関数において、理科の自由落下と関連付いていることを生徒に気付かせる指導を行う。 【定着の見届け】 ①単元別プリントの実施、机間指導で生徒の多様な解き方を見つけ、学級全体に広げる。また、習熟度に応じた補習を行う。 【主体的・対話的で深い学び】 ④生徒に考えさせるような発問（補助・切り返し）の工夫をする。また、少人数での学び合いの時間を意図的に設け、生徒が数学的な見方・考え方を働かせながら、思考力・表現力を高め、深い学びにつながる指導を行う。	
理科	② ④	１学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ・理科の植物と国語の説明文と関連付いていることを生徒に気付かせる指導を行う。 【定着の見届け】 ②小単元ごとに学力の定着を図るために、演習問題や計算問題に取り組む。 【主体的・対話的で深い学び】 ④ 理科の見方・考え方をもとに、自分で予想を立て、実験・観察を行い、考察を述べられるようにする。 ２学年 【教科等横断的な視点の手立て】	

		・理科の気象と社会の気候が関連付いていることを生徒に気付かせる指導を行う。 【定着の見届け】 ②小単元ごとに学力の定着を図るために、演習問題や計算問題に取り組む。 【主体的・対話的で深い学び】 ④理科の見方・考え方をもとに、自分で予想を立て、実験・観察を行い、考察を述べられるようにする。 ３学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ・理科の自由落下と数学の二次関数が関連付いていることを生徒に気付かせる指導を行う。 【定着の見届け】 ②小単元ごとに学力の定着を図るために、演習問題や計算問題に取り組む。 【主体的・対話的で深い学び】 ④理科の見方・考え方をもとに、自分で予想を立て、実験・観察を行い、考察を述べられるようにする。	
外国語	①②④⑤⑥⑦	１学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ⑤帯活動として、新出語彙や文法項目等を取り入れた簡単な会話活動を毎時間行う。自分に関わりのある質問に対して、すぐに答えられるよう Quick Input 等の活動を通して表現力を身に付けさせる。 【定着の見届け】 ①１単位時間・・Quick Input 単元・・言語活動（既習事項を用いて基本表現＋αの会話を行う） 読みテスト、単語テスト 学期末・・ALT との会話テスト（パフォーマンステスト） 【主体的・対話的で深い学び】 ⑦ALT とのコミュニケーションや生徒同士の言語活動の中で、他者の表現から学び、その場に応じた表現力を身に付けられるよう支援していく。	

		2学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ・即興的なやり取りを支える表現の定着のために帯活動として繋ぎ言葉や場面を設定した会話活動を行う。 【定着の見届け】 ①１単位時間：Quick Input　単元：言語活動（既習事項を用いて基本表現＋αの会話を行う）各学期末：ALTとの会話テスト（パフォーマンステスト） 【主体的・対話的で深い学び】 ⑤単元の内容に応じて基本文の定番から+αの内容についても表現していけるよう支援していく。 3学年 【教科等横断的な視点の手立て】 ④思考・判断・表現の力を付けるため、帯活動でQuick Inputを行う。 ②教科で学習したことをテーマに英作文活動を行う。 【定着の見届け】 ①１単位時間…Quick Input 単元：言語活動（既習事項を用いて＋αの会話を行う） 学期…定期試験を元に生徒の理解度を分析、ALTとの会話テスト（パフォーマンステスト） 【主体的・対話的で深い学び】 ⑥生徒の関心のあるトピックはICT等を用いて用意し、自己と結び付けて考えを話させたり、書かせたりする。また、発表を通して他者の考えを聞かせることで多様な考えに気付かせ、次の発表に生かせるように支援していく。	

音楽	①②④⑤⑦⑧	1学年 《身に付けさせる学力》 ①　創意工夫を生かして、曲に合った音楽表現をするために基礎的技能を身に付けさせる。 《具体的な取組》 【教科等横断的な視点の手立て】 ④思考・判断・表現する力を付けるために、楽譜や歌詞を読み解く活動を取り入れる。 【定着の見届け】 ②表現の工夫の仕方や、自己評価の結果、実技テストなどをもとに見届けを行う。 【主体的・対話的で深い学び】 ・演奏を振り返ったり、聴き合ったりしながら曲に合った表現の工夫をして、変容を確認する。 2学年 《身に付けさせる学力》 ・曲想と音楽の構造をふまえて、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。 《具体的な取組》 【教科等横断的な視点の手立て】 ⑤思考・判断・表現する力をつけるために、楽譜や歌詞を読み解き、表現に生かす活動を取り入れる。 【定着の見届け】 ①曲にふさわしい音楽表現の創意工夫や、自己評価の結果、実技テストなどをもとに見届けを行う。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑧演奏を振り返ったり、聴き合ったり評価したりしながら曲に合った表現の工夫をして、変容を確認する。 3学年 《身に付けさせる学力》 ・音楽の構造や背景をふまえ、創意工夫を生かし、音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。 《具体的な取組》 【教科等横断的な視点の手立て】 ・思考・判断・表現する力を付けるために、楽譜や歌詞を読み解き、音楽的な背景との関わりを理解して表現に生かす活動を取り入れる。 【定着の見届け】 ・曲にふさわしい音楽表現の創意工夫や、自己評価の結果、実技テストなどをもとに見届けを行う。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑦演奏を振り返ったり、聴き合ったり評価したりしながら曲に合った表現の工夫をして、変容を確認する。	

美術	① ④⑤⑥⑦⑧	１年生 《身に付けさせる学力》 ①楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 【教科等横断的な視点の手立て】 ④空間にバランス良く配置したり、拡大縮小したりする活動を通し、図形や作図、整列等を考え、思考・判断・表現する力を付ける。作品や作者から各年代の歴史的背景を学ぶ。 【定着の見届け】 ⑤指導した内容が作品の中で表現することができているか、ワークシート・ミニテストで振り返る。アイディアスケッチ等で発想力を見届ける。 【主体的・対話的で深い学び】 ④子供同士の協働、教員・作品との対話を手がかりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ「深い学び」を実現させる。 ２年生 《身に付けさせる学力》 ⑤対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追究し、創造的に表すことができるようにさせる。 《具体的な取組》 【教科等横断的な視点の手立て】 ⑤空間にバランス良く配置したり、拡大縮小したりする活動を通し、図形や作図、整列等を考え、思考・判断・表現する力を付ける。鑑賞から作者の歴史的背景なども考える力を付ける。 【定着の見届け】 ⑧指導した内容が作品の中で表現することができているか、ワークシート・ミニテストで振り返る。アイディアスケッチ等で発想力を見届ける。 【主体的・対話的で深い学び】	

		⑤子供同士の協働、教員・作品との対話を手がかりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ「深い学び」を実現させる。 ３年生 《身に付けさせる学力》 ・主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 《具体的な取組》 【教科等横断的な視点の手立て】 ⑥作品や作者の良さを見い出す鑑賞の活動を通し、友だちを認め、よさを言葉や文章にできる力を付ける。鑑賞から作者の歴史的背景等も考える力を付ける。 【定着の見届け】 ・指導した内容が作品の中で表現することができているか、ワークシート・ミニテストで振り返る。アイディアスケッチ等で発想力を見届ける。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑦子供同士の協働、教員・作品との対話を手がかりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ「深い学び」を実現させる。	

技術	① ②④	1学年 《身に付けさせる学力》 ②技術を評価、選択、管理・運用することによって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する力を身に付けさせる。 《具体的な取組》 【教科等横断的な視点の手立て】 ＜材料と加工の技術＞ ①理科での、植物の体のつくりと働きや原子・分子等の物質の成り立ち等の学習を踏まえ、材料の性質や構造、作物や家畜、水産生物の指導を行う。 ＜生物育成の技術＞ ①小学校理科における季節と生物、植物の発芽、成長、結実、生物と環境、及び中学校理科における植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働き等の内容を確認しながら指導を行う。 【定着の見届け】 ①小テストや課題の解決策が具体化された計画、設計図や製作物、製作レポート、栽培記録から定着を見届ける。 【主体的・対話的で深い学び】 ④既製品から開発者の意図を「読み取る」（対話的な学び）活動の段階から「技術の見方・考え方」を働かせ（深い学び）、生活や社会の中から材料と加工の技術・生物育成の技術の問題を見いだし、課題を設定、解決する活動（主体的な学び）を通して、技術の概念的な理解に導く。 2学年 《身に付けさせる学力》 ②技術を評価、選択、管理・運用、改良することによって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する力を身に付けさせる。 《具体的な取組》 【教科等横断的な視点の手立て】 ＜エネルギー変換の技術＞ ① 理科におけるエネルギー、電気、磁気、圧力、	

		運動等、関係する内容を確認しながら指導を行う。 3 学年 ＜情報の技術＞ ・総合的な学習の時間や「情報モラル集会」での学習内容を踏まえた指導を行う。 【定着の見届け】 ①小テストや課題の解決策が具体化された回路図や製作物・レポートから定着を見届ける。 【主体的・対話的で深い学び】 ① 既製品から開発者の意図を「読み取る」（対話的な学び）活動の段階から「技術の見方・考え方」を働かせ（深い学び）、生活や社会の中からエネルギー変換の技術・情報の技術の問題を見いだし、課題を設定、解決する活動（主体的な学び）を通して、技術の概念的な理解に導く。概念的理解のためにも基礎的な知識の定着を行う。	

家庭	②、⑥、⑧ ②、④、⑧ ③、⑤、⑦、⑧	１年生 ②衣生活・住生活・消費生活・環境では、理科・社会の指導内容を踏まえ、３年間を見通して取り組む。（その際に写真や動画、実物を提示する。） ⑥小学校での学習との系統性を図り、日常生活を工夫するために必要な知識・技能を活用し、写真や実物を見せ合う。 ⑧課題を発見し、既習の知識や技能を活用して生活を工夫するため、授業の最後に熟考するための振り返りをする。 ２年生 ②食生活と自立では、理科・社会の指導内容を踏まえ、日常生活の中から問題を見いだし、実生活を通して生活を工夫する。 ④２学年で学習したそれぞれの内容について、生活の中から課題を見つけ、その課題を解決する力を養う。 ⑧課題を発見し、既習の知識や技能を活用して生活を工夫するため、授業の最後に熟考するための振り返りをする。 ３年生 ③家族・家庭生活では、社会の指導内容を踏まえ、日々のニュースから問題を見いだし、実生活を通して生活を工夫する。 ⑤他教科や身近な事象と関連付けた教材を提示し、生徒の思考の深まりを促す。 ⑦３年間で学習したそれぞれの内容について、生活の中から課題を見つけ、その課題を解決する。 ⑧日常生活の中から課題を発見し、既習の知識や技能を活用して生活を工夫するため、授業の最後に熟考するための振り返りをする。	
保健体育	①④⑤⑥⑦⑧⑨	１年生 《身に付けさせる学力》 （１）知識・技能 ①学習の過程を通した知識を理解させる。また、各運動領域の特性に触れさせ、基本的な技	

		能を身に付けさせる。 （２）思考・判断・表現 ④知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考・判断・表現等を身に付けさせる。 （３）主体的に学習に取り組む態度 ・学習規律を確立し、自らの学習状況を把握し、意欲的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。 《具体的な取組》 ・評価規準をもとに、指導と評価の一体化を図る。 ・単元ごとの学習評価を行う。学習プリントとICT 端末を効率的に併用する。 ・体力向上推進委員会の実施。（実態把握・課題分析・手立て考案） ・技能習熟のためコンピューターや提示装置などを活用して、資料などを効果的に提示する。 【教科等横断的な視点の手立て】 （１）特別の教科道徳 ⑥意図的に自分を見つめ伸ばす視点、人と支え合うことの大切さを知る視点を取り入れた集団的活動を実施する。 （２）総合的な学習の時間（ＳＤＧｓとの関連） 【定着の見届け】 ・ねらいに対する振り返りの発表と助言を毎時行う。 ・単元のまとめとして、３つの観点について記入させる。 ・生徒が学習に活用し、授業内で繰り返し活用して技能を習熟できるように保存・記録させる。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑦生徒との協働活動、教員との対話や手立てを手掛かりに、考えたことを通じ、自己の考えを広げ、「深い学び」を実現させる。 2 年生 《身に付けさせる学力》 （１）知識・技能	

		・オリエンテーションを通して、各運動領域の特性に触れ、より深い学びや楽しみを味わわせ、自主的な活動を身に付けさせる。 （２）思考・判断・表現 ・自らの課題を明確にし、課題解決のための場の設定やそれに応じた指導を行う。 （３）主体的に学習に取り組む態度 ⑥学習カードや話し合いを通して、知識及び技術の向上、思考力・判断力・表現力等を高める生徒の育成を図る。 《具体的な取組》 ・体力向上推進委員会の実施（生徒の実態把握と課題分析） ・学習者用端末の活用。学習プリントと ICT 端末を効率的に併用する。 ⑧学習カードにアドバイス等を書き込み、自身の課題解決に向け共に学び合う授業を展開する。 ・自己評価では、ねらいに対して、本時の取組で感じたことや次回の課題を学習カードにまとめさせる。 【教科等横断的な視点の手立て】 （１）特別の教科道徳 ⑥意図的に自分を見つめ伸ばす視点、人と支え合うことの大切さを知る視点を取り入れた集団的活動の実施。 （２）総合的な学習の時間（ＳＤＧｓとの関連） 【定着の見届け】 ・指導した内容が実技の中で実践することができているか継続的な視点、スモールステップで指導し、成長を評価する。（１単位時間ではなく、まとまりのある内容で評価。） ⑧学習カードで振り返りが適切に行われているか、ねらいに対して、取り組みを通して、反省をしっかり行わせる。 ・知識の活用のため、思考力・判断力・表現力の項目の内容を学習カードに記入させる。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑨生徒同士の協働、体育教員との対話や具体的	

		な手立てを手掛かりに、考えることを通じ、自己の考えを広げ、「深い学び」を実現させる。 3 年生 《身に付けさせる学力》 （１）知識・技能 ・単元の目標に向け、自ら計画を立て意欲的に活動できるようにする。また、生涯にわたって運動に親しめる態度を養わせる。 （２）思考・判断・表現 ・知識及び技能を生かし、思考力・判断力・表現力を高める生徒の育成を図る。 （３）主体的に学習に取り組む態度 ・生徒の課題解決のための場の設定とそれに応じた指導を行う。 《具体的な取組》 ・体力向上推進委員会の実施。（生徒の実態把握と課題分析） ・学習者用端末の活用。学習プリントとＩＣＴ端末を効率的に併用する。 ⑤自己評価では、ねらいに応じて用語等を用いながら、自分の言葉で学習カードにまとめさせる。 【教科等横断的な視点の手立て】 （１）特別の教科道徳 ・意図的に自分を見つめ伸ばす視点、人と支え合うことの大切さを知る視点を取り入れた集団的活動の実施。 （２）総合的な学習の時間（ＳＤＧｓとの関連） 【定着の見届け】 ・指導した内容が実技の中で実践することができているか。（授業後、体育教員で情報共有・評価の確認・手立ての見直しの実施） ⑧知識・理解の確認のため、学習カードで振り返りをさせる。 【主体的・対話的で深い学び】 ⑨生徒同士の協働、体育教員との対話や具体的な手立てを手掛かりに、考える事を通じ、自己の考えを広げ「深い学び」を実現させる。	

特別の教科　道徳	⑥⑨	１学年 《身に付けさせる学力》 ・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる態度を育てる。 《具体的な取組》 ⑥上尾中学び方サイクルを基に、生徒の思考を深める授業を展開し、自分事として考える時間を必ず確保し、自分の考えをしっかりともたせ、発表させ、人の意見との比較、共有させる。 ２学年 《身に付けさせる学力》 ・温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し、思いやりの心を育てる。 《具体的な取組》 ⑥上尾中学び方サイクルを基に、生徒の思考を深める授業を展開し、自分事として考える時間を必ず確保する。そこから自分の考えをしっかりともたせ、根拠と理由を明確にして発表し、仲間と共有させる。 ３学年 《身に付けさせる学力》 ・自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める態度を育てる。 《具体的な取組》 ⑨上尾中学び方サイクルを基に、生徒の思考を深める授業を展開し、自分事として考える時間を必ず確保する。そこから物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深め、仲間と共有させる。	

特別支援学級	①⑤⑥	【教科等横断的な視点の手立て】 ①毎日の日記や行事ごとの絵日記を活用し、文章内容の発展、個々の課題に合った内容設定等を定期的に検討・改善し、個々の課題解決に取り組ませる。 ・学習題材は、身近な事象を取り入れる。 【表現する力・定着の見届け】 ⑤自分の考えや気持ちを、自分の言葉で伝えられるよう支援する。そのために、自分の考えをどう伝えればよいか、話す順序を示し、生徒自身でも振り返ることができるようにさせる。 【主体的・対話的で深い学び】 ・学習の目的を提示し、生徒が学ぶことに興味や関心をもてるように支援する。 ⑥諸行事を通じて、生徒同士の多様な考えに触れさせ、自分と異なる考えがあることを理解させる。 ①学習で得た知識を、日常生活に生かしたり、改善させたりする必要があるかを考えさせる。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○「上尾中学び方サイクル」の活用 ○朝読書の実施 ○生徒朝会を活用した委員会活動の充実 ○定期テスト前の学習支援 ○ＩＣＴの効果的な活用 ○ＳＤＧｓの視点を踏まえた授業デザインの構築 ○特別支援教育の充実 ○教育相談体制の充実 ○教科会の定期化	・各教科等で、「上尾中学び方サイクル」に基づいた授業を実施し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を育成する。 ・１０分間の朝読書の時間を確保し、読む力の向上と読書習慣の定着を図る。学期に１回、教員による読み聞かせ活動を行う。 ・専門委員会ごとに生徒朝会を企画し、委員会活動を充実させる。生徒主体の活動とし、朝会は教師の声ゼロを実施する。（Google Meet 等の活用により実施） ・定期テスト前にフォローアップウィークを設定し、補充的学習と提出物等の支援を実施する。また、学年の取組状況を可視化し、連携することを通じて様々な実践例を参考に、個別最適な学びを構築する。 ・「あげお学びのイノベーション推進プラン」に基づく、ＩＣＴを活用した授業づくりの実践を行う。 ・教科等横断的な視点を踏まえ、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の実現を目指す課題解決学習（総合的な学習の時間を要とする）について研究する。 ・生徒の実態に応じて、特別支援学級との交流学習を実施する。また、通級指導教室の利用を促進する。 ・さわやか相談員、スクールカウンセラーとの連携を強化し、教育相談体制の充実を図る。また、学習室を設置して不登校生徒への登校支援と教室復帰を支援する。 ・授業改善を目的とした教科会を定例化し、働き方改革を推進しながら授業の質の向上を図る。
家庭教育との連携	
○やりとり帳の取組 ○三者面談の実施 ○地区懇談会の実施 ○ホームページ、学校配信メール等の活用	・担任等が適切な生徒とのやりとりを通じて、生徒や家庭との連携を深める。 ・家庭との連携強化、特別支援教育では教育支援プランに基づいた面談を実施する。 ・コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を中心に教職員・保護者・地域の方との意見交換を行う。 ・こまめに更新し最新の情報を正しく提供する。また、学校における活動の様子を家庭・地域に向けて積極的に発信する。 ・学校だより、生徒指導だより、保健だより、進路だより等の電子化を進め、利便性を向上させる。